

本日学長進考阻止！

学長進考をなぜ阻止しなくてはならないのか？

すでに知つての通り、現在、同志社に学長はいない。星名学長は批判する学問回題に何らの誠意ある態度を示さず、一切の責任を回避して我々の前をうごまかして逃げて去ってしまつた。続く、今西・斎藤西学長代行もその無責任と無能力をあきすところなく發揮しているのであり、学長としての資格は一切なかつた。学長不在の大学——悲しむべき事案ではないか。そして、全ての学問回題に対して何らの行政方針も明らぬにせず、現在学長進考を行なわぬさうとしているのはもつと悲しむべき事案ではないか。

学校当局は、至急新しい学長を選び、同志社大学に山積みしている諸回題を売却することとそなふ義務である、と言っている。しかし、そのような過去を抹殺した安易な考えで、果して山積みしている諸回題を解決できるのだろうか。

むしろ、大学の危機を突破せんと志すのなら、学内行政の最高責任者を進が学長進考の時局にあつて、雪だるま式に矛盾の拡大を許してきたこれまでの行政に対する自己批判をふさぎ、煮つきりつつある矛盾の激化に対処する具体的・建設的プランを提示する事が必要なのである。ところが、実際には、進考のスケジュールのみを唯一進出し、進考及秘密裏に強行されるうとこしているのである。

我々は過去20数回にわたつて、学長や学長代行に、学主不在の行政に対してその解決の為の意見を要求してきたけれども、学長は自らの判断能力を持っていないばかりで、この同志社を侵略国家に佐藤政府に身受けさせたのである。その結果、学生の見聞要求から逃げ回り、現実の矛盾から回避してきた学長の姿なのである。今こそ、腐敗した官僚行政のたむろする大学の危機に対し、至急新しい学長を進出さなくてはならず、大学革新の為、無能力な学長の復讐をきっぱりと拒否すべきなのである。

大学の危機の本質は何か

学主不在の行政は、学生に対して全ての矛盾を激化する

る形で学生からの収奪、学生自治の抑圧として進行している。大同志社打想は、教員体系の空洞化・反動化をステッカーに日帝の新しいなる再編による、資本の安んずる技術労働者の粗製乱造を行わぬとして行っている事には他ならない。東洋アジア侵略を目標する日帝の国内統再編の一環としてこの大学の帝国内主義的再編の端的な表れに他ならない。即ち、現行的に、産学協同路線の進行として、大学を安価な中級サラリーマンの労働力商品工場とし、同時に学生から受益者負担制として徹底した収奪をかけてきている。これら全費協の水光費斗争としてその矛盾が暴露されたのである。

我々々大学の危機を語る時、一大学内の回題としてそれを語ってはならず、将しく国家統体の動きの中で語らねば何ら解決の糸口さえ見出せないのである。今こそ、そのような大学の危機を突破し、我々の先頭に立つ学長が必要なのである。

次の四点を認め実行するべし。学長は認めない、は実行でも阻止する！

- ① 権力の先になり反動の役を買つ学長は認めない。大学の危機は日帝の東南アジア侵略と右進回題の政治に源がある以上、70年安保反対の意志表示をなすべきである。
- ② 学費値上げ→田江町移転の大同志社打想の野望を捨て大学危機の解決の方針を明らかにせよ。
- ③ 寮・学館の管理運営を学生の手へ。水光費等一切の学費外負担の撤廃。
- ④ 学生の自治、創造活動の保障。大量の寮、サークルBOX、練習場を保障せよ。

全ての学友諸君、本日の学長進考実力阻止に起とう、我々の学長は我々の手で進んでいこう。真に我々と共に闘おう良識ある学長を